

バン格拉デシュからの報告

2026. 8/6 広島デー



8月6日は、日本の広島に原爆が投下された日です。YURIKO エンゼルスクールでは、この日に合わせて平和教育の一環として、広島の前爆被害について学ぶプログラムを行いました。生徒達は自分たちで広島の前爆について調べ、低学年のこどもは絵を描き、高学年のこどもはスピーチを行うなど、それぞれの学年に合った形で研究の成果を発表しました。

① 「広島の日と未来世代の責任と義務」

YURIKO エンゼルスクール 9 年生 Nusrat Jahan Jinia

皆さん、こんにちは。私の名前はヌスラト・ジャハン・ジニアです。本日は「広島の日と未来世代の責任と義務」というテーマについてお話しします。

日本という国を思い浮かべると、私たちの心には美しく平和な国の姿が浮かびます。桜の花、規律ある社会、勤勉な人々、そして先進的な技術によって日本は世界中から尊敬されています。日本の人々は誠実さ、平等、公正さ、勤勉さ、そして祖国への愛によって世界有数の国を築きました。しかし、今日のこの平和な日本の背後には、人類史上最も悲惨な出来事の一つがあります。それが広島の日です。

1945 年 8 月 6 日午前 8 時 15 分、第二次世界大戦の終結間際、広島に人類初の原子爆弾「リトルボーイ」が投下されました。その 3 日後の 8 月 9 日には長崎に「ファットマン」が投下されました。多くの人々が命を失い、生き残った人々も長年にわたり苦しみ続けました。それほど大きな悲劇を経験しながらも、日本は再び立ち上がり、今日では世界でも有数の美しく平和で発展した国へと成長しました。

しかし現在の世界は、1945 年よりもさらに危険であるとも言えます。多くの国が核兵器を保有しており、水素爆弾など原子爆弾より強力な兵器も存在しています。そうした状況の中で、私たち若い世代には大きな責任があります。私たちの第一の義務は、広島の悲劇から学ぶことです。そして世界から核兵器をなくすために努力することです。科学技術は人類の発展のために使われるべきであり、破壊のために使われてはなりません。

未来の世界は平和の世界でなければなりません。国家間や社会の対立は戦争ではなく、対話、協力、そして思いやりによって解決されるべきです。日本は極めて困難な時代から立ち直り、再び世界の発展に貢献する国となりました。私たちはその教訓を受け継ぎ、広島や長崎のような悲劇を二度と繰り返してはなりません。戦争ではなく、人類の平和こそが私たちの進むべき道です。

皆さま、ご清聴ありがとうございました。



② 「広島の日と破壊から学ぶ教訓」

YURIKO エンゼルスクール 9 年生 Khadijatul Kubra

本日、この大切な機会に「広島の日と破壊から学ぶ教訓」についてお話しします。人類の歴史には忘れてはならない日々があります。その中でも広島の日、戦争の恐ろしさを人類に警告する重要な日です。1945 年 8 月 6 日午前 8 時 15 分、日本の広島市に世界初の実戦使用となる原子爆弾が投下されました。この日、一つの都市、一つの文明、そして何万人もの人々の人生や夢が一瞬にして破壊されました。

第二次世界大戦の終結直前、アメリカ軍の B-29 爆撃機「エノラ・ゲイ」から「リトルボーイ」が投下されました。広島は激しい熱、炎、爆風に包まれ、およそ 8 万人の人々が即死しました。その 3 日後には長崎にも「ファットマン」と呼ばれる原子爆弾が投下されました。この出来事は、人類の歴史の中で最も悲惨な出来事の一つとして記憶されています。広島破壊は単なる都市の破壊ではありませんでした。それは人類の良心への深い警告でもありました。爆発を生き延びた人々は、長年にわたり放射線被害やさまざまな病気に苦しみました。また、自然環境や社会も大きな被害を受けました。戦争は単に人命を奪うだけではありません。希望を奪い、夢を壊し、人々を互いに引き離します。

広島破壊が私たちに教える最大の教訓は、戦争に真の勝者はいないということです。平和を実現するためには、協力、正義、相互理解、そして人類愛が必要です。憎しみや暴力ではなく、思いやりと共存によってより良い世界を築かなければなりません。バングラデシュの将来も、そして世界の未来も、武器ではなく真実、憎しみではなく愛、人種差別ではなく人間性によって守られるべきです。

最後に私が読んだ本の中にある詩の一節を紹介します。

「どこに自由があるのか、どこに進歩があるのか。自らの力で勝利の日を築こう。平和の道を共に歩もう。」

広島の日、人類に平和、人間性、そして共存の価値を思い出させます。この日は、戦争が決して恒久的な解決策ではないことを示しています。だからこそ私たちは、「ヒロシマを二度と繰り返さない。戦争を二度と繰り返さない」という決意を持たなければなりません。

ご清聴ありがとうございました。



③「平和は私たちの望む目標そのものではなく、その目標へ到達するための手段である。」

YURIKO エンゼルスクール 10 年生 Fabiha Islam Fiha

本日は平和をテーマに語る機会をいただき、ありがとうございます。

平和は人間の人生において最も価値ある財産です。平和があれば国家、家族、社会の中に調和と幸福、安全、そして発展が確保されます。平和な環境の中で人々は教育、健康、技術、経済発展などあらゆる面で前進することができます。その反対に、平和が失われると、戦争は人間の生活を混乱させ、多くの命が失われ、経済や社会の発展も妨げられます。そのため、世界平和を確立するには、相互の兄弟愛、寛容さ、正義、そして協力の精神を育てていかなければなりません。

平和な世界は、人類の進歩、繁栄、幸福の第一条件です。広島の日、そのことを私たちに深く思い起こさせる象徴的な日です。1945 年 8 月 6 日、広島に原子爆弾が投下され、多数の人々が命を失いました。さらに 3 日後の 8 月 9 日には長崎にも原子爆弾が投下されました。この破壊は、戦争がどれほど恐ろしいものであるかを人類に示しました。多くの人々が即死し、生き残った人々も放射線被害による苦しみを長く背負うことになりました。広島と長崎の悲劇は、私たちに平和の価値を教えています。また、核兵器が人類にもたらす危険について警告しています。

今日の広島は平和都市として世界に知られています。平和記念公園や平和記念資料館は、核兵器の恐ろしさと平和の重要性を未来の世代に伝えています。私たち一人ひとは、憎しみや対立ではなく、愛、思いやり、協力、相互理解を広げるよう努めなければなりません。なぜなら、どの国も平和なしには望ましい発展への道を進むことができないからです。

ご清聴ありがとうございました。



④広島の日と核兵器の影響

YURIKO エンゼルスクール 9 年生 Sadia Tasnim Zeba

第二次世界大戦の終わり頃の 1945 年 8 月 6 日、日本の広島市に「リトルボーイ」と呼ばれる世界初の原子爆弾が投下されました。人類文明の歴史において、この日は深い悲しみと恐ろしい虐殺の象徴です。毎年 8 月 6 日は、広島の日として平和のメッセージとともに記憶されています。

1945 年 8 月 6 日午前 8 時 15 分、アメリカ軍の B-29 爆撃機から広島に原子爆弾が投下されました。爆発と同時に市内の気温はおよそ 3000 度に達しました。わずか数分のうちに広島は炎と煙に包まれ、ほぼ完全に破壊されました。最初の爆発だけで約 8 万人が命を失い、都市は巨大な廃墟へと変わりました。原爆の影響は爆発だけで終わりませんでした。爆発によって発生した放射能や放射性物質が空気や水を汚染しました。爆発後数か月の間にもさらに約 6 万人が亡くなりました。生き残った人々も、その後長い年月にわたって苦しみ続けました。放射線被害によってさまざまながんや身体障害、遺伝的な問題が生じ、多くの子どもたちは先天的障害を抱えて生まれることになりました。

広島で使用された爆弾の破壊力は、核兵器がいかに恐ろしいものであるかを世界に示しました。核兵器は単に一つの都市や国家を破壊するだけでなく、人類文明全体を脅かします。現在、世界のさまざまな国々がさらに強力な核兵器を保有しています。もしこれらの兵器が使用されれば、地球全体を破壊することも可能です。第三次世界大戦が核兵器によって起こるならば、人類文明そのものが滅亡の危機に直面するでしょう。

広島の日単なる追悼の日ではありません。それは核兵器に反対する世界的な意識を高める日でもあります。世界中の人々はこの日を通じて、核戦争の恐ろしさから世界を守ることを誓い「ノーモア・ヒロシマ、ノーモア・ナガサキ」というスローガンを実現するために活動しています。広島が灰の中から立ち上がって平和都市となったことは、人類に対する平和のメッセージを運んでいます。しかし、核兵器があれば平和は決して保証されません。平和は人間性と文明への信頼から生まれるものです。

広島の日が私たちに教える最も大きな教訓は、兵器の力ではなく、人類への愛と世界平和こそが人類の幸福を確かなものにするということです。核兵器の恐怖を防ぎ、平和な世界を築くためには、世界的な協力と連帯が必要です。これこそが広島の日の本質的な教訓です。ご清聴ありがとうございました。

